令和８年 11 月 12 日
教育委員会 11 月定例会
報告事項
学校教育部教育指導課

◎令和８年度（2026 年度）　学習状況等調査の結果について

本市の児童生徒の学習状況等の現状を学校・家庭・地域で共有し、理解していただくとともに、学校の教育活動と積極的に連携していくためにも、本年度も本市の状況および課題について公表します。

１　横須賀市児童生徒学習状況等質問調査

（１）調査の概要

本市では、児童生徒の学習等に対する意識を把握・分析し、調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善及び児童生徒の学習に役立て、本市として必要な施策の策定に資するために、小学校２～５年生と中学校１・２年生を対象とした「横須賀市児童生徒学習状況等質問調査」（以下、「市質問調査」とする）を令和８年６月 15 日(月)～７月 17 日(金)に実施しました。

この市質問調査は、全国的な質問調査に加え、本市独自の質問調査を実施し、よこすか豊かな学びづくり推進プランに掲げた４つの目標の適切な進捗状況の把握を目指しています。

なお、本市全体の状況及び課題については、公表しますが、学校間の序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表しません。

（２）市質問調査の結果

本調査における個々の質問を、表に示すカテゴリーに分類しています。それぞれのカテゴリーに分類される一つ一つの質問について、「最も望ましい／良好な選択肢」「次に望ましい／良好な選択肢」「改善／配慮を要する選択肢」「特に改善／配慮を要する選択肢」を点数化し、どの程度の児童生徒が肯定的な選択肢を選んだかを数値化しています。その数値をさらに、全国平均を 50 とする偏差値として算出した値を示しています。

		小２	小３	小４	小５	中１	中２
自己認識	家族のささえ	49.4	49.6	49.7	49.3	48.9	48.8
	友だちのささえ	50.1	49.9	50	49.2	49.1	49
	先生のささえ	49.8	50	50.3	50	49	49.4
	成功体験と自信	50.8	50.3	50.9	50.1	49.2	49.4
	充実感と向上心	50.1	49.8	50.5	49.7	49.7	49.5
	感動体験	50.6	50.2	50.4	49.7	50.1	ｙ0
	他者からの評価	－	49.9	50.3	49.7	49.6	49.9

社会性	規範意識	50.4	50.5	50.5	48.8	48.2	47.7
	思いやり（人間関係構築力）	50.2	50.5	50.5	49.6	49.5	49.4
	発信力	50.7	50.7	50.9	49.6	50.1	49.9
	対話・話し合い	49.2	49.4	49.6	49.2	51.2	51.2
	社会参画	－	－	－	49.1	49.6	48.9
学級環境	学級の規範意識	48.8	49.9	49.5	48.7	47.9	46.4
	学級の絆	50.1	49.7	49.9	48.7	49.7	49.4
	いじめのサイン	47.7	48.3	48.8	48.4	48.7	47.3
	対人ストレス	49	48.8	48.9	49	47.7	47.8
生活・学習習慣	生活習慣	51	50.8	50.9	50.4	49.1	48.8
	学習習慣	48.2	48.8	48	47.7	47.6	47.7
	学習意欲	49.5	50.3	50.1	49.5	49	48.9

※発達の段階や特性に合わせて質問が設定されているため、学年によって質問のない項目があります。

※全国平均－２ポイント以下で

また、本市独自の質問調査を行い、「よこすか豊かな学びづくり推進プラン」及び各種事業の進捗状況等の把握をしています。本市独自の質問調査に関しては、肯定的回答の割合を示しています。

		小２	小３	小４	小５	中１	中２
質問１	授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	90.8	90	92.1	92.1	93.3	94.6
質問２	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	84.5	84.4	83.9	80.7	78	77.1
質問３	自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	75.5	75.4	76.1	75.7	78.5	79.4
質問４	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	84	85.6	85.2	85	79.1	76.4

		小２	小３	小４	小５	中１	中２
質問 7	読書は好きですか	80.2	72.9	69.1	61.7	53.3	49
質問 10	地域の人と関わったり、話をしたりする機会はありますか	71	73.3	76.3	72	67.7	60.5
質問 11	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	66.6	68.4	71.7	66	58.8	50.5
質問 12	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	87.7	92.6	94.9	95.7	94.9	94.2
質問 17	授業などで PC・タブレットなどの ICT 機器を使うことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	81.8	84.6	90.8	92.3	95.8	95.8
質問 18	学校にいるとき、安心して過ごせますか	85.7	89	88.2	86.5	87.9	87.1
質問 19	自分のことを大切に思うことができますか	90.8	91.3	90.7	86.2	81.7	84.3

（３）調査結果の主な傾向

① 友だちと協力して学ぶ姿勢は強み

市独自調査の「友だちや周りの人の考えを大切にし、協力して課題解決に取り組む」は、全学年で 90.0～94.6%が肯定的に回答しています。学年が上がるほど上昇する傾向が見られました。

また、「いじめはどんな理由があってもいけない」とする回答も 87.7～95.7%と高い水準です。仲間と学び合う土台や、いじめを許さない意識は、全体として強みと考えられます。

一方で、「学校にいるとき安心して過ごせる」は 85.7～89.0%にとどまります。高い回答割合ではありますが、全員が安心できているとは限らないため、学級内の関係や個々の困り感を継続して把握することが必要です。

②自分で学び方を工夫する力に課題

「分からないことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫する」は、小学２年生の 84.5%から中学２年生の 77.1%へ低下しています。

「学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりする」も、小学校では 84.0～85.6%ですが、中学２年生では 76.4%です。学年が上がるにつれて、学びを自分で調整したり、学んだ内容の意味を実感したりする機会が不足している可能性があります。

市の偏差値指標でも、学習習慣は全学年で 47.6～48.8、学習意欲は中学生で 48.9～49.0 と、全国平均を下回る傾向です。授業内で学習の見通しを立て、振り返り、次の学びにつなげる経験を増やすことが課題です。

③読書や生活・学習習慣は学年とともに低下

「読書が好き」は、小学２年生の 80.2%から中学２年生の 49.0%へ大きく低下しています。特に小学校高学年から中学生にかけて、読書への肯定感が下がっています。

生活・学習習慣の偏差値では、小学生の生活習慣は 50.4～51.0 と比較的良好ですが、中学生では 48.8～49.1 です。学習習慣は小・中学校を通じて全国平均を下回っています。

読書や家庭での学習を、単に時間や量の問題として扱うだけでなく、興味・関心に合った本や教材に出会える環境をつくったり、読書や家庭での学習習慣を無理なく継続できるように支援したりする必要があります。

④地域・社会とのつながりは中学生で弱まる

「地域の人と関わったり、話をしたりする機会がある」は、小学４年生の 76.3%をピークに、中学２年生では 60.5%です。

「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」は、小学４年生の 71.7%から中学２年生の 50.5%へ低下しています。地域での体験や社会課題について考える機会が、学年とともに少なくなっていることがうかがえます。

学校の学びを日常生活や地域の活動と結び付け、児童生徒自身が「学んだことを社会で生かせる」と感じられるよう、教師が学びを価値付ける必要があります。

⑤自己肯定感や支援を感じる項目にも配慮が必要

「自分のことを大切に思うことができる」は、小学２～４年生では約 91%ですが、小学５年生では 86.2%、中学１年生では 81.7%に低下しています。

市質問調査でも、家族・友だち・先生からの支えや、自己認識に関する項目の一部で全国平均を下回っています。特に学年が上がっても、その子の成長や努力を自覚できるように接し、困ったり悩んだりしたときにも安心して相談できる関係づくりを支援する必要があります。

２　全国学力・学習状況調査

（１）調査の概要

本年度全国学力・学習状況調査は、小学校第６学年及び中学校第３学年の全児童生徒を対象とした悉皆方式で、教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）と質問調査が実施されました。

（２）横須賀市立学校の校種別教科の結果

①　小学校（教科）

	国　　語	算　　数
全国平均正答率	60.9	56.4
本市平均正答率	56	52
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	92.0	92.2
前回調査との差	−0.9	0.8

②　中学校（教科）

	国　　語	数　　学	英語（４技能）
全国平均正答率 ※英語は平均 IRT スコア	63.9	57.0	499.0
本市平均正答率 ※英語は平均 IRT スコア	64	56	510
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	100.2	98.2	
前回調査との差	2.6	0.9	

※英語については、４月 20 日～４月 24 日に英語３技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」が調査され、４月 24 日～５月 29 日に英語「話すこと」が調査されました。

（３）読み取れること

小学校は、国語・算数とも全国平均を下回っています。前回との差は、国語が 0.9 ポイント低下、算数が 0.8 ポイント上昇です。

中学校は、国語が全国平均をわずかに上回り、数学はやや下回っています。前回との差は、国語が 2.6 ポイント上昇、数学が 0.9 ポイント上昇です。

英語は、本市の平均 IRT スコアが全国平均を上回っています。

ただし、これらは限られた学年・教科・設問による結果であり、児童生徒の学力全体を示すものではありません。結果を単純な順位づけに使うのではなく、授業改善や個々の学習支援に生かせるよう取扱います。

３　横須賀市学力向上推進プランについて

（１）横須賀市学力向上推進プラン

横須賀市では、『横須賀市学力向上推進プラン（よこすか豊かな学びづくり推進プラン)』（以下、「よこすか豊かな学びづくり推進プラン」という）令和８年３月に策定しました。児童生徒の「学力」を認知的な能力及び非認知的な能力の両面から捉え、一人一人の発達や特性に応じて、その子の成長を支え、学校・家庭・地域が一体となって、「学ぶ楽しさ」や「新しい意味や価値を自らつくりだす喜び」を実感できる新たな学びの在り方を探究しています。

よこすか豊かな学びづくり推進プランでは、次の４つの目標を掲げています。

目標１　共に学び合う集団をつくる
目標２　粘り強く学ぶ力を育てる
目標３　社会とつながる力を育てる
目標４　生活や学びの土台となる力を育てる

この４つの目標の到達度を測り、適切に進捗管理を行うために、全市的な質問調査（横須賀市児童生徒学習状況等質問調査）を行い、児童生徒の学びに対する意識や学級の人間関係、社会とのつながり、生活習慣に関することなどを把握します。

（２）よこすか豊かな学びづくり推進プランの４つの目標に沿った整理

【目標１】共に学び合う集団をつくる

	成果指標	活動指標
小学校	92.1	92.4
	基準値：86.8	国語平均正答率：92.2
中学校	94.6	99.4
	基準値：89.9	国語平均正答率：100.2

協力して課題に取り組む回答は、小学校で 90.0～92.1%、中学校で 93.3～94.6%と高く、学年が上がるほど上昇しています。目標に向けた強みが見られます。

一方、市質問調査の結果を見ると学級の規範意識や安心感に関する項目には低い値もあります。協働的な学びを生かしながら、誰もが安心して学ぶことができる学級づくりを続けることが必要です。

【目標２】粘り強く学ぶ力を育てる

	成果指標
小学校	80.7
	基準値：82.0
中学校	77.1
	基準値：79.8

「自分で学び方を考え、工夫する」の肯定率は、小学２年生の 84.5%に対し、中学２年生では 77.1%です。目標の基準値も、小学校 82.0%に対して実績 80.7%、中学校 79.8%に対して実績 77.1%と、いずれも下回っています。

課題に粘り強く取り組む経験に加え、学習の見通しや振り返り、試行錯誤が必要な場面が授業に組み込まれている指導計画になっているのか、粘り強く取り組む姿を適宜評価できるような意識があるのかなど、具体的な指導改善が必要であると捉えています。

【目標３】社会とつながる力を育てる

	成果指標	活動指標
小学校	75.7	88.1
	基準値：80.9	算数平均正答率：92.0
中学校	79.4	97.0
	基準値：89.9	数学平均正答率：98.2

調べたことを発表する学習活動への肯定率は、小学校で 75.4～76.1%、中学校で 78.5～79.4%です。一方、地域との関わりや社会をよくするために考える割合は、特に中学生で低下しています。

学習活動の実施と、社会や地域とのつながりを児童生徒が実感することの両方を重視する必要があり、地域の学習材を生かした指導計画や学校運営協議会と連携した教材づくり等を検討する必要があります。

【目標４】生活や学びの土台となる力を育てる

	成果指標
小学校	85.0
	基準値：80.9
中学校	76.4
	基準値：78.4

「学んだことを次の学習や実生活に生かせる」は、小学生では目標の基準値 80.9%を上回る 85.0%ですが、中学生は基準値 78.4%に対して 76.4%です。

また、市質問調査からは、読書、生活・学習習慣、自己肯定感などにも課題が見られます。学校だけでなく、家庭や地域でも子どもの言葉や気持ちを受け止められるよう情報を共有し、子どもの日々の努力や成長を捉え、励ます関わりが、生活や学びの土台を支えると考えています。

４　今後の取組について

調査結果を踏まえ、特に大切にしたい取組を５つに分けて整理します。目指すのは、数値を上げることだけではなく、子どもたちが「分かった」「できた」「学んだことを使えた」と実感できることです。

（１）　自分に合った学び方を身に付ける

「分からないことがあったとき、自分で学び方を考えて工夫する」と答えた割合は、小学２年生の 84.5%に対し、中学２年生では 77.1%でした。また、学習習慣に関する指標も、全学年で全国平均を下回っています。

この結果から、児童生徒が学習に取り組む時間を増やすだけでなく、分からないときにどうするか、どの方法なら理解しやすいかを考える力を育てることが大切です。

学校では、例えば次のような学びを進めます。

・授業のはじめに「今日は何を分かるようにするのか」を確かめる

・問題の解き方や調べ方を一つに限定せず、自分に合う方法を選ぶ
・分からないときに、教科書やノートを読み返す、友だちに聞く、資料を調べるなど、様々な方法を試す
・授業の終わりに「分かったこと」「まだ分からないこと」「次に試したいこと」を振り返り、ノートなどに記録しておく
・家庭学習でも、取り組む内容や時間の見通しを立て、終わった後に簡単に振り返る

大人がすぐに答えを教えるのではなく、「どこまでは分かった？」「次はどんな方法を試せそう？」と問いかけることも、児童生徒が自分で考える助けになります。

（２） 小学校高学年から中学生の「できた」という実感を支える

成功体験や自信、学習意欲に関する調査結果は、小学校では比較的高い項目がある一方、中学校では全国平均を下回る項目が見られます。また、自分で学び方を工夫する割合も中学生で低くなっています。

学習内容が難しくなる中で、児童生徒が「自分にはできない」と感じてしまうことも考えられます。そこで、正解したかどうかだけでなく、どのように考えたか、どんな工夫をしたか、前より何ができるようになったかを認めることが重要です。

学校では、次のような工夫が考えられます。

・子どもの力に応じて、少し努力すれば解決できる課題を用意する
・一度で結果が出なくても、つくりかえたり、考え方を変えたりする時間を確保する
・「前より説明が分かりやすくなった」など、成長した点を具体的に伝える
・個人やグループで目標を立て、達成までの過程を振り返るように指導する
・友だち同士で、結果だけでなく自分なりの考え方や工夫を伝え合えるように指導する

家庭でも、点数や順位だけでなく、努力の過程や本人なりの工夫に目を向けることが、次の挑戦につながります。

（３） 読書や情報に親しむ機会を広げる

「読書が好き」と答えた割合は、小学２年生の 80.2%から中学２年生の 49.0%に低下しています。読書への関心が学年とともに弱まる傾向が見られるため、子どもが本に出会うきっかけを増やすことが大切です。

読書は、本をたくさん読むことが目的ではありません。物語を楽しむ、知りたいことを調べる、人の考えに触れるなど、自分の関心を広げる機会にもなります。

学校・家庭・地域では、次のような取組ができます。

・子どもが興味を持ちやすい本や、短時間でも読みやすい本を紹介する
・友だちや先生などと読んで面白かった本を紹介し合う
・図書館で、子ども自身が読みたい本を選ぶ機会をつくる
・読んだ感想を文章にするだけでなく、絵・会話・発表など好きな方法で共有する
・本以外の資料や電子書籍も含め、安心して情報に触れられるようにする

「読書が好きか」という回答だけでは、実際にどれくらい読んでいるかまでは分かりません。読書時間や利用する資料なども見ながら、子どもに合った支援を検討します。

（４） 学校での学びを地域や社会につなげる

「地域の人と関わる機会がある」「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」と答えた割合は、中学校で低くなる傾向がありました。また、目標３「社会とつながる力を育てる」では、活動の実施状況に比べ、児童生徒の実感を示す成果指標が基準値を下回っています。

活動を行うだけでなく、児童生徒自身が「何を学んだのか」「自分の学びが誰かの役に立ったのか」を実感できるようにすることが大切です。

例えば、次のような学習が考えられます。

・地域の人から、直接、仕事や地域の歴史、身近な課題について話を聞く
・地域の防災、環境、福祉などの課題を調べる
・調べた内容を整理し、地域の人や関係する団体に伝える（提案する）
・児童生徒の提案等に対して、地域の人から感想や助言をもらう
・可能な範囲で、児童生徒の提案を実際の活動につなげて振り返る

こうした学びを通して、教科等で学んだことが身近な生活や社会で役立つことを感じられるようにします。

（５） 安心して学び、相談できる環境を整える

「学校にいるとき、安心して過ごせる」と答えた子どもは多い一方、すべての児童生徒が安心しているわけではありません。また、自己肯定感や周囲からの支えに関する項目には、中学生で全国平均を下回るものが見られました。

安心して過ごすためには、友だちや教師との関わり、学習状況等が土台となります。調査の平均値だけで児童生徒の学習状況や学級等の状態を判断せず、子ども一人ひとりの様子に目を向ける必要があります。

学校では、次のような取組を進めます。

・児童生徒の話を途中で決めつけずに最後まで聞き、気持ちを受け止める
・担任だけでなく、複数の教職員に相談できることを様々な媒体で伝える
・からかいや仲間外れなど、小さな変化にも気付き、早めに対応できる体制をつくる

・学級活動などで、互いに意見を伝え合い、その違いや異なる考えを尊重する機会をつくる
・児童生徒が「困ったときに誰に相談できるか」を分かるようにする
・児童生徒が教室以外に安心できるスペースとして、相談室やサポートルームを充実させる

家庭や地域でも、子どもの様子がいつもと違うと感じたときには、本人の話を最後まで聞き、必要に応じて学校と情報を共有することが、子どもの生活や学びの支えになります。

５　よこすか豊かな学びづくり推進プランに基づく取組の成果を確かめる

市全体及び各学校での取組は、実施した回数だけで成果を判断するのではなく、児童生徒にどのような変化（成果や課題など）があったかを、計画的に確かめることが大切です。

例えば、次のような視点で児童生徒にアンケートを取ったり、実際に話しかけたりして、児童生徒が今抱いている思いに共感したり、児童生徒の喜びや困り感などに寄り添ったりすることが重要になると考えています。

・自分で学び方を選んだり、分からないときに方法を変えたりできたか
・学習の振り返りを、次の学びに生かせたか
・読書や調べ学習に、自分から取り組む機会が増えたか
・学校の学びが生活や地域につながると感じられたか
・安心して過ごせるか、困ったときに相談できるか

調査結果は、児童生徒の状況を知るための一つの資料です。数値だけで取組に対する評価を決めず、学校での様子や児童生徒の声と合わせて、取組の改善に生かしていきます。

また、教育委員会は、各目標に対する好事例を掴み、それを市内の学校に具体的に発信し、市全体で豊かな学びが創造されるよう努めます。

６　まとめ

本市の強みは、協力して学ぶ姿勢、いじめを許さない意識、ICT 活用への期待です。一方で、学習習慣、自分で学び方を工夫する力、読書、地域・社会とのつながり、自己肯定感は、特に学年が上がるにつれて課題が目立ちます。

今後は、児童生徒が安心して学び合える関係づくりや環境を土台に、学びを自分で調整し、実生活や社会とのつながりを実感できる豊かな学びが、学校・家庭・地域が三位一体となって創造されるよう、教育委員会がその全体をサポートします。